



マツシマメジャテックの韓国での活動

株式会社マツシマメジャテック
浦項駐在員事務所
徐 赫秀

マツシマメジャテックは、創業1946年の産業機器メーカーです。主に、レベル計測機器、ベルトコンベア周辺保護機器、粉体計測機器、電動式アクチュエータ等を製造販売しており、創業当時より鉄鋼・電力・セメント等重工業プラント向けに多くの製品を納入させて頂いております。

韓国との取引は数十年の歴史がありますが、2011年9月に浦項市に駐在員事務所を設立致しました。

韓国の慶尚北道に位置している浦項は、1968年にPOSCO (旧浦項総合製鐵所) が誕生して以来、韓国有数の工業都市として発展してきた都市で、工業都市として北九州と雰囲気が似ているところがあります。

最近の主な実績としては、日本でも数多く販売している溶鉱炉用のレベル計があります。欧州製が採用されていたPOSCO光陽製鐵所において、相当数を当社製品へ切り替えを頂きました。

また、当社が日本で初めて製品化に成功したパルスレーダー式レベル計の販売も非常に好調で、現在では鉄鋼だけでなく水処理業界でも多くのご採用を頂いています。

韓国は日本の隣の国で地理的に近く、食材や風習などは似ている部分が多くありますが、ビジネスの上では仕事の進め方や考え方にギャップがあり、その違いを意識して仕事をしております。

今回は韓国と日本のビジネス文化に関して少しご紹介をさせていただきます。

韓国の企業は意思決定が早いため、仕事を進めるスピードが速く、決定後の結果を重要視する傾向があります。しかし、順調に進めば問題ないのですが、問題が発生した時の対策に関しては、十分ではなく混乱する場合があります。



浦項夏祭り (高炉をバックに)



事務所にて

一方、日本では成功する可能性が十分あっても、失敗した時のリスクを考慮した対策を重視します。その分トップダウン式で決定の早い韓国に比べると意思決定が遅くなり、時間を要しますが、方向が決まれば体系的に進むメリットがあります。

つまり、日本と韓国間でビジネスをすると、韓国側からは日本の意思決定が遅い、対応スピードが遅いなどの話を良く聞きますが、日本側からは、もっと具体的に説明をして欲しいなどの話を良く聞きます。このようなギャップを解消することが一番大変な仕事でした。

このようなギャップは、お互いのコミュニケーションを頻繁に取る事が一番効果的でした。お互いの会社を直接訪問して、進め方や相手の立場を理解した上で話をする。また、頻繁にコミュニケーションをするため、現在の状況がリアルタイムで情報収集が出来て、対策が打てるなどの効果がありました。何よりもお互いの理解を深めることが、顧客満足に繋がる効果としてありました。

日本と韓国は昔から交流が続いており、多くの企業がお互いの国へ進出しております。また、多くの日本人が韓国で活躍されています。お互いに深い関係があることに間違いはないでしょう。このような友好関係が持続する事を祈り、当社製品の販売に寄与できるように努力して参りますので、宜しくお願い申し上げます。